

令和5年度 第3回（第7期第2回）新宿区産業振興会議 議事要旨

【日 時】 令和6年2月2日（金）午後3時～5時

【場 所】 B I Z新宿（区立産業会館） 研修室A

【出席者】 委 員：植田、遠山、長山、笠井、則竹、窪川、富田、平山、篠崎、各委員

事務局：鯨井文化観光産業部長、市田産業振興課長、吉田産業振興係長、前田産業振興主査、
住宅主任、阿部主事

【欠席者】 捧、井上、伊藤、平野

【傍聴者】 なし

【配布資料】 省略

【内 容】

1 開会

2 議事

（1）経営支援の現状について

資料2～6に基づき、事務局より説明した後、各委員から意見を求めた。

（2）創業支援の現状について

資料7～13に基づき、事務局より説明した後、各委員から意見を求めた。

（3）ヒアリング対象事業者について

事務局より有限監査法人トーマツと東京都よろず支援拠点のチーフコーディネーターを提案し、了承された。

3 主な発言内容

（1）経営支援の現状について

- ・区の経営支援についても動画を利用することなど、できる部分からデジタル化を進め、効率的に実施することが必要だと思う。
- ・相談業務は、相談できる内容をテーマ別にしたからといって、それで単純に相談件数の増加につながるとは思えない。専門相談員の得意分野や人数など、表記の仕方や周知方法を検討してはどうか。
- ・商工相談でも高田馬場創業支援センターでも創業に関する相談を受けられるというのは、どこに相談に行ったらよいのかが分かりにくいかもしれない。
- ・相談内容の多くが制度融資を借りるための手続きとしての相談となっているのであれば、そこは簡素化してしまっても良いのではないかと。ただ、制度融資のための相談を無くした後にどのような相談支援が実施できるかは考えないといけない。
- ・区の相談事業を広く知ってもらうため、金融機関や業界団体などを通じて周知を強化してはどうか。その際には、実際の成功例など、具体的な事例を含めて伝えると良いと思う。
- ・新宿区の状況が他区と比べて極端に遅れているかというとそうではなく、どこも同じような状況にある。ただしオンライン相談など、できることから先進的な手段に変えていく必要がある。
- ・狭山市の取り組み（Saya・Biz）は、新宿と比べるとかなり違う町なのでそのままの形で実施することは難しいと思うが、良い点は取り入れていいと思う。

（2）創業支援の現状について

- ・創業には一般的な飲食店などを開業する創業と、新しい技術などを基にしたスタートアップと呼ばれる2種類がある。創業支援を考えるうえで、これらは分けて考える必要があるのではないかと。
- ・区は高田馬場創業支援センターを中心に創業支援を行ってきたが、これをそのまま継続すべきか、それとも

民間のインキュベーション施設と連携することで支援の対象を広げるようなことを考えるか。センターができてから10数年が経っており、検討すべき時期に来ていると思う。

- ・高田馬場創業支援センターは東京都の認定インキュベーション施設と比べて、施設は老朽化しており、規模や定員、入居可能な期間など、中途半端になってしまったのではないかな。
- ・創業支援を実施するにおいて、場所を貸す施設が必須というわけではなく、相談できる体制や補助金など、安心して創業できる環境を整備することが大切だと思う。
- ・新宿の地域特性や新宿区でないとできないことを踏まえ、新宿らしい創業支援という視点から考えていくこと、また国や都が行っている創業支援とどう住み分けをするかも考える必要がある。
- ・伝統産業や外国人の方を支援するような創業支援が新宿らしいのではないかな。

4 次回日程について（予定）

日 時：令和6年5月

会 場：B I Z新宿

5 閉 会